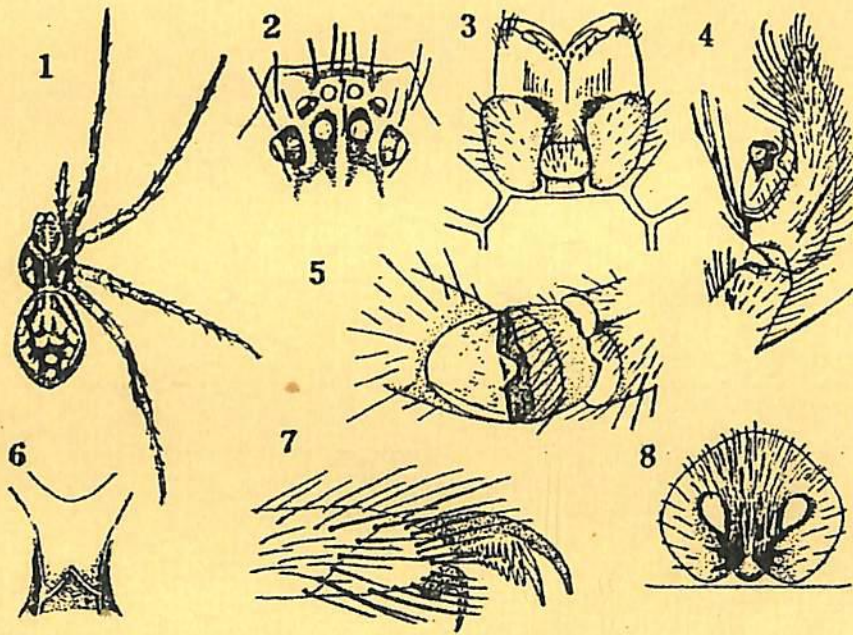


しのびぐも

第 1 5 号



Cuspius orientalis YAGINUMA

1987

三 重 ク モ 談 話 会

し の び ぐ も

第 15 号

1987

カナエグモ属の捕食習性……橋本氏とエバハード氏の 観察の比較から	新 海 明	1
三重県のとたてグモ類について	須 賀 瑛 文	5
シオジ平自然園周辺のクモ	緒 方 清 人	7
三重クモ談話会採集会報告	三重クモ談話会	12
三重県産真正蜘蛛類目録 (Ⅲ)	三重クモ談話会	20
談話会図書		21
昭和61年度決算報告		22
会員名簿		23

三 重 ク モ 談 話 会

表 紙 説 明

Cispius orientalis YAGINUMA

シノビグモ (キシダグモ科)

1965年5月4日、三重県、三重大学平倉演習林（
一志郡美杉村川上）にて、橋本理市氏採集。

新種として記載された。

図は、八木沼健夫氏の御厚意により、ACTA
ARACHNOLOGICA Vol. 20 No. 2 より転写したも
の。

1. Dorsal view (♀)
2. Eye area (♀)
3. Mouth part (♀)
4. Palp (♂)
5. Trochanter (♀)
6. Pedicel (♀)
7. Onychium and claws (♀)
8. Epigynum (♀)

カナエグモ属の捕食習性

…… 橋本氏とエバハード氏の観察の比較から

新 海 明

1963年に発行された *Atypus* 29号に橋本理市氏による「カナエグモ・カタハリウズグモを攻げきする」という論文が発表されている（橋本, 1963）。私がこの論文を知ったのは、それから5~6年後のことと思う。けれども、それは論文名のみでの出会いであったようだ。橋本氏の論文を詳しく読み橋本氏が具体的にどう観察をされ、カナエグモの捕食習性についてどのような考えを持たれていたかを知ったのは、実は昨年（1986年）のことであった。というのも、この年にエバハード氏から兄のもとへ送られてきた論文中に「刺客グモ *Chorizopes* sp. の餌捕獲行動とその餌の防御行動」という論文があり（Eberhard, 1983）、それを読んでから急に日本のカナエグモの習性の記録が気になり、改めてきちんと読み直してみたからである。

橋本氏の論文の要点をまとめると以下のようなになる。

カタハリウズグモ *Uloborus sybotides*（以下、カタハリと呼ぶ）の網に侵入していたヤマトカナエグモ *Chorizopes nipponicus*（以下、カナエグモと呼ぶ）を発見したが、両者とも動きがないので、ヤブカを餌としてカタハリの網にかけてみた。カタハリが餌を捕らえにいくと、カナエグモは網の中心へ移動してそこで静止した。糸で餌を包み、中心へ戻ろうとしたカタハリはカナエグモに気づくと前肢で糸をはじいて威嚇したがカナエグモはがんとして動かなかつた。約2cm離れて両者にらみあいとなった。そして、「（橋本氏は）しびれを切らして…略…その場をはなれた」。約1時間後に戻ると、カナエグモはカタハリの獲物をくわえており、カタハリはすでに死んでいた。カナエグモはカタハリを糸で包んだが、かみつこうともせず獲物のほうへ戻りそれを食べた。

そして、以上のような観察を踏まえて、「このことから、カナエグモが、他のクモを攻げきして、エモノを奪い生活していると結論を下すのは、早すぎるが、少なくとも、カナエグモの生活の一面であることは疑いの余地がない。今後の観察によって、更に詳しいことが明らかになると思う」と述べている。

エバハード氏はインドにいるカナエグモの一種 *Chorizopes* sp. でその餌の捕獲行動を観察している。それによると、シロカネグモの一種 *Leucaige*

sp. の網のへりにカナエグモを人為的に入れた。シロカネグモはカナエグモに気がつくとも網を強く揺すった。するとカナエグモも網を揺すって応答した。シロカネグモは侵入者の方へすばやく進んだ。両者は出会った所で一瞬脚を絡ませたがすぐに離れた。シロカネグモはこしきへと戻った。続く6分間は両者ともに動きはなかった。しかし、その後シロカネグモは力が抜けたようにだらりと傾き、後脚は伸びてしまった。すると、カナエグモは慎重に近づきシロカネグモに咬みついた後、糸で包んでしまった。つまり、最初の出会いの時にカナエグモは瞬間的にシロカネグモに咬みついて毒を注入していたのである。

このような観察から、エバハード氏はカナエグモは他のクモの網主の威嚇に対して攻撃的に反応して、それをひきつけて襲うクモであり、この属の典型的な特徴である長くて重い上顎が、このような戦法を可能にしているのだという。

橋本氏の論文とエバハード氏の論文の結果は一見すると異なるように思える。すなわち、橋本氏はカナエグモを「網主の餌を強奪するクモ」とみなし、エバハード氏は「網主を襲うクモ」とみなしているように思えるからである。しかし、橋本氏の論文をよく読めば判るが、橋本氏はカナエグモがカタハリを襲った現場を直接見ているわけではなく、あくまで「1時間後の結果」からの推論として「網主の餌を強奪するクモではないか」と考えているのである（論文を読めば判るが大変慎重に控えめに述べられている）。そして、カタハリは死んでいたわけであるから、カナエグモに襲われたのはまちがいないだろう。とすれば、エバハード氏のいうようにこのクモを「網主を襲うクモ」とみなして一向に差し支えない。しかし、問題は「網主が餌を持っている場合に、その餌に対してカナエグモがどのように対処したか」なのである。実は、このことが私がこのように拘ってまでこの一文を草した理由でもある。人はこういうかも知れない「時と場合によってクモの餌の捕り方も色色に変わるさ」と。確かにその通りである。しかし、それはでたらめなものでは決してない。ある程度の可能性を持ちながらも、一定のパターンに従って行動が展開するのが普通なのである。

私はここ数年イソウロウグモ属を中心にクモを襲うクモを調べている。ところが、クモを襲うクモはいずれも網主のクモを食べることに関心を持ち、網主の持っていた餌には興味を示さないのが（私が今まで観察した限りでは）普通なのである。私も調査の都合上橋本氏がやったように、餌を人為的に与えることによりクモの行動を誘い出すことをする。しかし、これらの

クモはいつも網主を捕えると、与えた餌（つまり、網主の捕った餌）には見向きもせずほったらかしにしたままに網主のみを捕食するのである。このような観点から考えると、橋本氏が観察したカナエグモの餌に対する行動は私には大変興味深く思えるのである。

カナエグモの捕食習性については、その後中平清氏がアシナガサラグモとヨツデゴミグモの網で橋本氏と同様の観察をし、それを「強盗グモ」と名付け1966年に *Atypus* 39号の「梶ヶ森探蛛行（その1）」の中で述べている（中平，1966）。また、有田立身氏は *Atypus* 49/50号（1969）の「カナエグモの習性についての一考察」の中で、このクモは飼育ビン中で夜間のみ不規則の糸を張りめぐらす。ハエは捕食せずクモを与えるとこれを攻撃する。攻撃は相手が近づき接触した時に行われる。攻撃は一度で終わり追跡攻撃はしない。毒は強力でその効果は10分以内に現れる。相手が倒れてから近づき捕食し、その時わずかに糸をかけることなどが述べられている（有田，1969）。この有田氏の観察結果はエバハード氏のそれとほとんど同じである。

そして、有田氏から後の研究者は「カナエグモは他のクモを襲うクモである」という見解で一致しているように思われる（新海・高野，1984：八木沼，1986）。私自身の観察結果も、カナエグモは他のクモを襲うクモであることを支持するものばかりではあるが、橋本氏や中平氏の観察された事実・・・「カナエグモは強盗グモではないか」・・・は私の心の中でやはりこだわりとして残るのである。今後はこのクモがどのような状況で「強盗（網主からの餌の強奪）」をするのかを念頭において観察を続けていきたいと考えている。

引用文献

- 有田立身，1969. カナエグモの習性についての一考察. *Atypus*, (49/50) : 31-35.
- Eberhard, W. G., 1983. Predatory behaviour of an assassin spider, *Chorizopes* sp. (Araneidae), and the defensive behaviour of its prey. *J. Bombay Nat. Hist. Soc.*, (77) : 522-524.
- 橋本理市，1963. カナエグモ・カタハリウズグモを攻げきする. *Atypus*, (29) : 26-27.
- 中平 清，1966. 梶ヶ森探蛛行（その1）. *Atypus*, (39) : 13-23.
- 新海栄一・高野伸二，1984. フィールド図鑑クモ. 1-204. 東海大学出版

会，東京。

八木沼健夫，1986。原色日本クモ類図鑑。 i-xxiv+1-305, pls. 1-64.

保育社，大阪。

三重県のとたてグモ類について (I)

須賀 瑛文

三重県産真正蜘蛛類¹⁾ (1984) によれば、三重県のとたてグモ類、特にカネコトタテグモ・キシノウエトタテグモの記録は隣県の愛知県に比較して非常に少ない。ここに筆者 (H・S) がこれまでに見たカネコトタテグモの産地を記録するとともに、あわせてキノボリトタテグモの産地も記しておきたい。なお、参考のため前記文献にあるものを再掲し、そのものについては※印を付けた。

1. カネコトタテグモ

- | | | |
|-----------------|-----------|---------|
| ※(1) 度会郡二見町金胎寺 | 1972・3・31 | (桂 孝次郎) |
| ※(2) 安芸郡経ヶ峰 | 1975・8・1 | (貝発 憲治) |
| (3) 員弁郡北勢町北中津原 | 1985・5・3 | H・S |
| (4) 員弁郡北勢町悟入谷川 | 1985・6・2 | H・S |
| (5) 員弁郡北勢町登奈井尾谷 | 1985・8・22 | H・S |
| (6) 員弁郡藤原町聖宝寺 | 1986・8・3 | H・S |
| (7) 四日市市宮妻峽 | 1987・6・28 | H・S |

2. キシノウエトタテグモ

- | | | |
|----------------|-----------|--------|
| ※(1) 伊勢市伊勢神宮内宮 | 1974・6・25 | (孫福 正) |
| ※(2) 伊勢市伊勢神宮外宮 | 1974・6・25 | (孫福 正) |

3. キノボリトタテグモ

- | | | |
|----------------------|-----------|-------------|
| ※(1) 伊勢市旭町 | 1942・9・8 | (孫福 正) |
| | | —————→ほか全県下 |
| (2) 三重郡菰野町福王神社 | 1985・2・17 | H・S |
| (3) 員弁郡東員町猪名部神社 | 1985・2・17 | H・S |
| (4) 桑名郡多度町多度大社 | 1985・2・17 | H・S |
| (5) 亀山市亀山城跡 | 1985・3・3 | H・S |
| (6) 鈴鹿市加佐登町加佐登神社 | 1985・3・3 | H・S |
| (7) 員弁郡北勢町悟入谷川 | 1985・6・2 | H・S |
| (8) 亀山市南野町石水溪 | 1985・6・9 | H・S |
| (9) 員弁郡北勢町見野川上流 (本谷) | 1985・8・18 | H・S |
| (10) 員弁郡藤原町聖宝寺付近 | 1985・9・15 | H・S |
| (11) 員弁郡北勢町治田峠治田城跡 | 1986・4・27 | H・S |
| (12) 四日市市宮妻峽 | 1987・6・28 | H・S |

今回は、以上のようにその産地について述べるのにとどめた。しかし、特にカネコトタテグモについては、今後次のことに注目して観察する必要があるものとする。

- ・愛知県のように、一つの場所にたくさんの住居がかたまっている例が今までの観察ではみられなかったが…………… どうか。
- ・現在まで、県南部での観察例がないし、北部でも少ない。愛知県ほど多くないような気がしているが…………… どうか。

参考文献

- 1) 太田・橋本・貝発, 1984. 三重県産真正蜘蛛類. 三重生物, 第33・34号
- 2) 須賀英文, 1985. 愛知県のトタテグモ類. 中部蜘蛛懇談会「蜘蛛」№19.

シオジ平自然園周辺のクモ 緒方 清 人

1987年 7月25日から27日まで、中央アルプス越百山〔こもすやま〕(2613.2m) のふもと、シオジ平自然園 (1400m) の近くでキャンプをした。

出掛ける前は、ガイドブックをめくり、あれこれと思案した。なんせ、子供 5人連れの家族である。テントが張れて、自然がたっぷりとあり、それでいて人の少ない場所……。こうしてみると中々思うようにないのである。

5万分の 1 (赤穂) の地図に「シオジ平自然園」とある。その地名に魅力があり、深い森を想像させた。また、越百山の登山道にはいくつかの滝があるようで、時間がゆるせばこの山にも登りたかった。

7月25日11時50分に豊田市を出発した。中央高速道路を一路北へ、長野県上伊那郡まで来れば、もうリンゴのふるさとである。

与田切川に沿って車を走らせ、目的地のシオジ平に着いたのが15時15分である。走行距離 156kmであった。

登山道にはホタルブクロやタマアジサイが花を咲かせていた。アサギマダラやミヤマシロチョウが蜜を求めて飛び交っていた。ミズナラ、ダケカンバ、ブナの樹木は見事な森をつくり、ホトトギス、コマドリ、オオルリが遠く近く鳴いた。

夕食を作っていると、地上をモリコモリグモが数頭徘徊していた。ヤマジハエトリが車の中まで入ってきたし、アマギエビスグモが私たちの体を排った。食事後、夕立になり、テントの中まで雨水が流れ込んだが、夜には星が輝き、子供たちを起こした。

26日は越百山へ挑戦だ。オオシラビソ、コメツガ、カラマツが林立している。林床はチシマザサが一面に広がっている。梢にヒガラヤシジュウカラが群れている。ヨツバヒヨドリが今を盛りと咲きほこり、白い花にタテジマハナカミキリ、ヨツスジハナカミキリ、ツマグロハナカミキリ、フタスジハナカミキリなどのカミキリの仲間が多く集まっていた。足もとからクジャクチョウが力強く飛立った。

子供たちは「お父ちゃんクモだよ」と、ウススジハエトリやデーニツハエトリを差し出した。標高は1700m を越え、クモの姿は少なくチシマザサにはシロブチサラグモとハンモックサラグモが目立つだけとなった。ヤマヤチグモの姿は個体数が多く、成体や幼体を観察した。ダケカンバの樹皮より、アシヨレグモのシート網があり 2頭採集した。中小川の溪流は段々と荒々

しくなり、ミソサザイが水しぶきをあびながらさえずった。

乙女の滝を通るのにはくさり場があり、この辺から登山道が急に険しくなった。相生の滝で丁度1900m、我が家の登山の限界である。下の子はまだ5歳、よく登った。湧き水がしたたり落ちる岩場に円網があり、採集したらキタドヨウグモ雌成体であった。ユノハマヒメグモも確認し、ここで数種類のクモを採集した。

滝から見上げる屏風のような崖にはイワツバメが繁殖し、弧を描きながら出入りした。足もとのシャクナゲはまだ花をつけていなかった。

27日はキャンプの最後の日、午前中たつぷりとシオジ平自然園の中を探索した。樹木の種類は多く、シオジをはじめ、ダケカンバ、ミズナラ、クロベ、ウラジロモミ、カツラ、ハルニレ、ブナなどが見上げるほど茂っていた。ツルウメモドキ、ヤマブドウ、サルナシ、イワガラミなどのつる植物がマント群落をつくり、森を一層深くさせた。ヤリグモがシロブチサラグモの網の中にいた。ギボシヒメグモが卵のうを守っている。休憩所の梁にはヒメグモの仲間が2頭卵のうを守っていた。3mmほどのコケヒメグモに似たクモだ。岩の下でもヤチグモの仲間が卵のうを守っていた。ナミハグモの仲間はどいう訳か地上を徘徊し、十数頭の中から雌雄4頭を採集した。倒木の表面や樹木の苔の表面にも数種のクモを見つけ採集した。

林床にはオンダが茂り、タマガワホトトギヤキツリフネの黄色の花が美しい。1株のランも咲いていた。どうやらキノチドリの子の仲間のようなものだ。地上をイナズマウラシヤグモやウデブトハエトリが徘徊している。ワシグモの仲間は動きが早く、逃げられてしまった。落葉の中にもコサラグモの仲間が卵のうを守っていたが、この微小なクモは私は苦手だ。手取りだけの採集しかできなかつたが40種ほど採集できた。時間をかければ、まだまだこの森はおもしろそうである。

帰路につくころ、子供たちにヤマブドウとサルナシの実を見せた。もう一度、味覚の秋に尋ねてみたい。上空に入道雲がわき、クマタカが視野から消えた。コエゾセミの鳴声を背後に聞きながら、たった1人の登山者しか出会わなかつた、静かな中央アルプスを後にした。

長野県上伊那郡飯島町中央アルプスシオジ平自然園周辺 (1300m~1900m)
〔C3750-3540〕にて観察と採集したクモは下記のとおりである。

目録の配列は、八木沼健夫 (1986) 「原色日本クモ類図鑑」に従う。

目 録

I. ハグモ科

1. ハグモ科sp. 全体黄褐色で 6眼。♀A 2. 倒木の表面にカレバグモに似た住居。豊田市ではリターより採集。体長 2mm。

II. ウズグモ科

2. ウズグモ 登山道脇の崖で観察。

III. ヒメグモ科

3. オオヒメグモ 1300m~1450mの建物の岩、樹木のすき間で見える。
4. ツリガネヒメグモ 1300m。 岩のすき間に住居を見る。
5. ヒメグモ科sp. ♀SA 4. 1400m。 体長 2~3mm。倒木のすき間。数本の粘糸を張り、近づくと落下する。
6. ヒメグモ科sp. ♀2. 建物の梁に不規則網あり、卵のうを守る。コケヒメグモに似た体長 3~ 4mmのクモ。
7. ユノハマヒメグモ ♀1. 1900m。湿った崖のくぼみ。
8. ギボシヒメグモ ♀2 とも葉うらで卵のうを守っていた。
9. ヒメグモsp. ♀A 1. カガリグモ属と思われる。体長約 6mm。背甲赤褐色。胸板褐色。腹部黒褐色で三ヶ月形の白斑が15あり、歩脚全体に赤褐色だが、第 1脚の脛節のみ黒色。
10. ヤリグモ ♂A 1. シロブチサラグモの網の中にいた。

IV. カラカラグモ科

11. ヤマジグモ ♀A 1. シオジ平自然園内。

V. サラグモ科

12. シロブチサラグモ 1350m~1900mまで普通に見る。
13. サラグモsp. ♀A 1. 1400m。 草地の地表に小さな皿網を張っていた。
14. ハンモックサラグモ 1350m~1900mまで普通に見る。
15. アシヨレグモ ♀SA 2. 1400m~1700mで見える。
16. サラグモsp. Y 1. ヤセサラグモ属と思われる。
17. サラグモsp. ♂SA 1. 1400m。 森の中の崖地よりシート網を張る。普通に見る。
18. サラグモsp. ♀SA 1.
19. サラグモsp. ♀SA 1.

20. サラグモsp. ♀A 1. 体長2.5mm。全身赤褐色。
 21. サラグモsp. ♀A 2. 体長2mm。全身橙色。ブナの落葉の中で直径7mmの卵のうを守っていた。
 22. サラグモsp. Y 1. 1.5mmの全身橙色。頭部が高く隆起している。

VI. コガネグモ科

23. コオニグモモドキ ♀A 1. 1600m。チシマザサの葉上。
 24. ハツリグモ 1400m 登山道沿。円網に落葉をつるし、中にひそんでいた。
 25. キタドヨウグモ ♀A 1. 相生の滝 (1900m) の湿った崖地。

VII. アシナガグモ科

26. ミドリアシナガグモ ♂A 1. 1300m。登山道脇の草地。
 27. ウロコアシナガグモ ♀A 1. 1400m。シオジ平自然園内。

VIII. タナグモ科

28. ナミハグモsp. 1400m シオジ平自然園内。地上徘徊するを数十頭確認。内♀A 3. ♂A 1 採集。
 29. ヤマヤチグモ ♀A 1. ♂A 1. 1300m~1700m。普通に見られた。
 30. ヤチグモsp. ♀A 1. 1400m。シオジ平自然園内の岩のくぼみで卵のうを守っていた。体長11mm。後牙堤 4歯。
 31. ヤチグモsp. ♂SA 3. 1400m。シオジ平自然園内徘徊する。体長5mm。後牙堤 3歯。

IX. ハタケグモ科

32. ハタケグモ ♀A 1. 1400m。リターの中。

X. コモリグモ科

33. ハリゲコモリグモ ♀A 3. 1400m。内 1頭が卵のうをつけていた。
 34. モリコモリグモ ♀A 4. キャンプをした登山道脇の荒地。

XI. フクログモ科

35. フクログモsp. 1400m~1700m。チシマザサの中に住居を作っていた。まだ幼体ばかり。

36. イナズマウラシマグモ ♀A 1. ♂A 1. 1400m。地上を徘徊する。

XII. ワシグモ科

37. ワシグモsp. 1400m。林内の地上を徘徊していた。採集できず。

XIII. アシダカグモ科

38. コアシダカグモ 1300m~1400m。建物のすみで見る。

XIV. カニグモ科

39. アマギエビスグモ ♀A 3. 1300m~1400m。体を徘徊していた。

XV. ハエトリグモ科

40. ヤマジハエトリ ♀A 1. 車を徘徊していた。
41. ウススジハエトリ ♀3. ♂1. 1400m. シオジ平自然園内。
42. ハエトリ sp. ♂A 1. タテジマハエトリに似る。1400m. 樹皮を徘徊。
43. ハエトリ sp. ♀SA 1. Y1. 体長 3~4mm. 樹皮を徘徊。
44. エキスハエトリ ♀A 1. 1400m. 樹皮を徘徊。
45. ネオンハエトリ ♀A 1. 1400m. 地上を徘徊。

三重クモ談話会採集会報告

期 日 昭和61年 9月23日
場 所 三重県三重郡菰野町福王山〔C 3628—3504〕
参加者 清水善夫・須賀英文・緒方清人・貝発憲治

今回の採集会もできれば愛知、岐阜の方々と御一緒したいという気持から、三重県の北部の地を選んだ。参加予定は 8名であったが、太田先生は急な来客のため、また、永井さんは葬儀のため、残念ながら欠席となった。

名古屋の方々が車で来られるということなので、私は久しぶりに電車で行くことにした。採集用具や弁当、カメラ等沢山の荷物をかかえて、四日市駅にて湯の山線に乗りかえる。この線はあまり利用したことがなかったが、電車はすぐにのどかな田園地帯に入り、約20分で菰野駅へ着いた。予定より15分程早かったが、駅前にはすでに、緒方さんの黒いワゴン車と須賀先生の白いパルサーが止まっていた。近くの喫茶店にて挨拶を交わす。かなり前から待ってみえたようである。清水さんもわざわざ遠方まで来ていただきうれしく思った。

本日の参加者は、結局 4名だけということなので、早々、2台の車で一路、最初の予定地福王山へ向った。須賀先生は福王山の調査は 3回目であるが、ここではカネコトタテグモはまだ未発見であるということであった。

山頂の急坂を登りきると福王神社があったので、まずここで採集をすることにした。しかし、この日は会式があるようで、かなりの人々にぎわっており、どうも落着かないため、すぐに神社横の杉林へ移動し、ここで観察を開始した。雄のアシヨレグモの網、ネコハエトリを捕食中のオナガグモ、クロヤチグモ、ナミハグモ類……等、緒方さんに接写のテクニックを教わりながら、順にスライド写真に収め観察を行った。しばらくいくと、幅 1.0m程の湧出水が流れていた。「こんな環境にもシノビグモはいますよ。探してみましようか」といいながら、石ころを 5つ、6つひっくり返すと、すぐに、アオグロハシリグモやクラークコモリグモとともに、シノビグモの幼体と雄成体が採れた。須賀先生が事も無げにカネコトタテグモの住居を発見されるが、1つのものに注目して調査を続けていると、案外簡単に見つけられるようになるものだ。シノビグモもかなり広い地域に生息しているものと思われる。その他、ヨリメグモ、ヤマジドヨウグモ等も見つかった。

ふと気がつくと、既に12時半。坂の下の広場までもどって昼食とした。

この広場のあたりは、雑草地やスギ、ヒノキ林が多くあり、観察すると面白そうなので、昼からの予定の朝明溪谷はとりやめ、午後もここで採集を続けることにした。休憩をしながらも標本の交換やクモの話に花が咲く。近くで緒方さんがハンゲツオスナキグモの住居と卵のうやツリガネヒメグモの卵のうを発見し、しばらく観察した後、雑草地から林内へ入った。いろいろな種類がいるような環境だ。ナガコガネグモ、アズマキシダグモ、デーニツハエトリ……、子グモが出た後のマメイタイセキグモの卵のうがぶら下っている。また、沢山の卵のうとオオトリノフンダマシの雌成体も発見。さらに、キンヨウグモの大変美しいすばらしい姿も撮影した。同じクモ仲間とわいわい言いながら観察するのは、本当に楽しく時間のたつのを忘れてしまう。4時前になったので、最後に種類数を増やすために、ピーティングとシフティングを行って、本日の採集会を終ることにした。

すがすがしい秋晴れのもとでの楽しい有意義な一日であった。名古屋の方、わざわざ遠方まで来ていただき、ありがとうございました。

(貝 発)

○ 採 集 結 果

I. ウズグモ科

1. ウズグモ Y 1
2. マネキグモ Y 1

II. ニウレイグモ科

3. ニウレイグモ

III. ヒメグモ科

4. オオヒメグモ ♀A 1
5. ツリガネヒメグモ ♀A 1
6. ヒメグモ ♀A 2
7. コンビラヒメグモ ♀A 1
8. キヒメグモ ♀A 1
9. ムナボシヒメグモ Y 1
10. ギボシヒメグモ Y 1
11. ハンゲツオスナキグモ ♀A 1
12. アシブトヒメグモ Y 2
13. カニミジグモ ♀A 1
14. ホシミドリヒメグモ ♂SA 1. Y 3
15. ヒシガタグモ ♀A 1

16. ハラナガヒシガタグモ ♀Y 2
 17. ヤホシヒメグモ ♀A 1
 18. スネグロオチバヒメグモ Y 1
 19. フタオイソウロウグモ Y 1
 20. ヤリグモ ♂SA 1
 21. オナガグモ ♀A 1
 ・ ヒメグモ科sp. Y. 1

IV. センショウグモ科

22. センショウグモ ♀A 1

V. サラグモ科

23. アシナガサラグモ ♀A 1
 24. ユノハマサラグモ ♀A 1
 25. チビサラグモ Y 5
 26. アシヨレグモ ♂A 1
 27. アリマネグモ ♂A 5
 28. ハラジロムナキグモ Y 2
 ・ ケシグモ属sp. ♂SA 1
 ・ サラグモ科sp. Y 3

VI. ヨリメグモ科

29. ヨリメグモ ♀A 1

VII. コガネグモ科

30. カラフトオニグモ Y 3
 31. サガオニグモ Y 1
 32. オオトリノフンダマシ ♀A 3
 33. マメイタイセキグモ (卵のう)
 34. コガタコガネグモ ♀A 1
 35. ナガコガネグモ ♀A 3
 36. ゴミグモ ♀A 1
 37. ジョロウグモ ♀A 2
 38. ヤマジドヨウグモ Y 1

VIII. アシナガグモ科

39. キンヨウグモ ♀A 2
 ・ シロカネグモ属sp. Y 1

IX. タナグモ科

40. クロヤチグモ ♀A 1

41. ヒメシモフリヤチグモ ♀A 1
 ・ ヤチグモ属sp. Y 1
 ・ ナミハグモ属sp. ♀A 2

X. ササグモ科

42. ササグモ Y 3

XI. コモリグモ科

43. クラークコモリグモ ♀A 1

XII. キシダグモ科

44. イオウイロハシリグモ ♀SA 1
 45. アオグロハシリグモ Y 3
 46. アズマキシダグモ Y 1
 47. シノビグモ ♂A 1. Y 2

XIII. フクログモ科

48. カバキコマチグモ ♀SA 2
 49. ヤハズフクログモ ♂SA 1
 50. ネコグモ Y 1

XIV. イズツグモ科

51. イズツグモ Y 1

XV. アシダカグモ科

52. コアシダカグモ Y 1

XVI. カニグモ科

53. ヤミイロカニグモ Y 3
 54. ハナグモ ♀A 1
 55. コハナグモ Y 1
 56. ワカバグモ Y 1
 57. トラフカニグモ ♂SA 1
 58. アマギエビスグモ Y 1

XVII. エビグモ科

59. シャコグモ Y 1
 60. キエビグモ ♀SA 1
 61. アサヒエビグモ Y 2

XVIII. ハエトリグモ科

62. デーニッツハエトリ ♂A 5. Y 1
 63. キアシハエトリ ♀A 1
 64. アリグモ Y 1

期 日 昭和62年 6月28日
場 所 三重県四日市市官妻町官妻峽〔C3626-3459~C3628-3458〕
参加者 太田定浩・須賀瑛文・緒方清人・緒方幸子・緒方千草・
緒方ふみ・緒方里乃・緒方四葉・緒方潤・貝発憲治・
貝発勇哉

勤務状態が多忙の者が多くてなかなか都合のよい日がそろわず、遅れに遅れてやっと6月28日に、本年度第一回目の採集会を行うこととした。さっそく緒方さんから、家族全員で参加するとの電話をいただいた。

当日、我が家の下の子供(小二)も、たまたま他の行事とうまく重ならなかったため(最近では小学校や地区子供会の行事が多すぎて、日曜日といえどもおいそれと家族そろって外出もできない。こまった現象だと思ふ)、ついていくことになった。少しくもり空であったが、7時30分に松阪を出発。学校のこと、友達のこと、勉強のこと等楽しく話しながら一路四日市へ。途中で太田先生宅へ立ち寄り、9時30分に集合場所の近鉄四日市駅西口へ到着した。太田先生はやっとなれた休日をわざわざ参加して下さった。また、須賀先生も大変忙しい中、かけ参じて下さった。緒方さん一家は、少し早く着いたとのことで、近くの鶴の森神社を散策中であつた。奥さんと元気な子供さん5人の大家族であり、参加者は合計11名。これは、きょうの採集会は大変面白くなりそうだなと思つた。

10時前、地図で確認をしてから三台の車で官妻峽へ向けて出発。随分とくもってきた。四日市市内を横切り、10km程西方の伊勢茶の産地水沢の茶畑を横切ると官妻口である。山の入口で車を止め、まずここで採集をすることにしたが、ぼつぼつと雨が降り出した。採集の用意をする間にも、緒方さん一家はさっそく双眼鏡で鳥の観察である。渡ってきたサシバとハシブトガラスの空中戦ということであつた。一家そろつての生物への関心の深さとももの知りなのには大変驚いた。10分程ですぐ雨があがったので、スギ林から下の茶園へ向つて採集を開始した。ピーティングをする者、カメラに夢中の者、がけや葉裏、樹皮下を細かく観察する者等いろいろである。茶園では、ハリゲコモリグモが沢山徘徊し、キレワハエトリも見られたが、全体としては手入れがゆきとどきすぎているため、思った程クモ相は豊富ではなかつた。40分程で切り上げ、もう少し山の中腹あたりまで行くことにする。雑木林やスギ林を道づたいに12時30分まで採集、観察をした。アマギエビスグモ、ヨダンハエトリ、ユノハマヒメグモ、卵のうを持ったヨツデゴミグモ、カバキコマチグモの巣等多くのクモが見られた。

昼食後は、宮妻口までもどり、ここで最後の採集を行った。カネコトタテグモやキノボリトタテグモの巣のを見つけ方を須賀先生から教えていただいた。なるほど、全く見過ごしていたような場所に、慣れるといるものである。少しその要領がつかめた。その他、ヤマヤチグモが沢山徘徊していたし、ナンブコツブグモの巣の様子、ムツバハエトリ、セマルトラフカニグモ、アシダカグモを捕食中のオオヒメグモ等々、興味ある生態が沢山観察され、子供達も大変面白そうに見入っていた。

3時になり、子供達も少々疲れてきたようだし、遠方からの者も多いので、ここらで本日の採集会は終了することにした。帰りに水沢でそれぞれおいしいお茶を購入して解散をした。幸いに心配していた雨もほとんど降らず、子供達も最後まで熱心に観察ができて、大変満足のいく1日であった。

(貝 発)

○ 採 集 結 果

I. カネコトタテグモ科

1. カネコトタテグモ (巣のみ観察)

II. トタテグモ科

2. キノボリトタテグモ ♀A 1

III. ウズグモ科

3. カタハリウズグモ ♀A 1

IV. マシラグモ科

4. ヨコフマシラグモ ♀A 4. ♂A 2

V. ヒメグモ科

5. オオヒメグモ ♂A 1. Y 1

6. ヒメグモ Y 2

7. タカユヒメグモ ♀A 1

8. バラギヒメグモ ♀A 4

9. ユノハマヒメグモ ♀A 1

10. アシプトヒメグモ ♀A 1. ♂A 1. Y 1

11. ボカシミジグモ ♂A 1

12. ホシミドリヒメグモ ♀A 1

13. ムラクモヒシガタグモ ♂SA 1

14. スネグロオチバヒメグモ ♂A 1

VI. センショウグモ科

15. センショウグモ ♀A 1

VII. サラグモ科

16. フタスジサラグモ	♀A 1
17. チビサラグモ	Y 1
18. ツリサラグモ	Y 1
19. ムネグロサラグモ	♀A 1
20. コデーニツツサラグモ	♀A 1
21. ザラアカムネグモ	♀A 1
22. Erigoninae sp.	♀A 1
• ケシグモ属sp.	Y 1
• サラグモ科sp.	Y 1

VIII. コツブグモ科

23. ナンブコツブグモ	♀A 1
--------------	------

IX. コガネグモ科

24. ヘリジロオニグモ	Y 1
25. ヨツデゴミグモ	♀A 1
26. タニマノドヨウグモ	♀A 1

X. アシナガグモ科

27. オオシロカネグモ	♀A 1
28. コシロカネグモ	♀A 1

XI. タナグモ科

29. コクサグモ	Y 5
30. ヤマヤチグモ	♀A 2
31. ヤチグモ属sp.	♀A 1
• ヤチグモ属sp.	♀SA 1. Y 1
• タナグモ科sp.	Y 1

XII. ハタケグモ科

32. ハタケグモ	♀A 3
-----------	------

XIII. コモリグモ科

33. ハリゲコモリグモ	♀A 2
34. キシベコモリグモ	♀A 1
35. ナミコモリグモ	♀A 1
36. クラークコモリグモ	♀A 2
37. チビコモリグモ	♀A 1

XIV. キシダグモ科

38. アズマキシダグモ (キスジ型)	♀A 1
---------------------	------

XV. フクログモ科

- | | |
|----------------|------------|
| 39. カバキコマチグモ | ♀A 1 |
| 40. コフクログモ (?) | ♀A 4. ♂A 1 |
| 41. ムナアカフクログモ | ♂A 1 |
| 42. ウラシマグモ | ♀A 3 |
| 43. イタチグモ | ♀A 1 |

XVI. シボグモ科

- | | |
|----------|-----------|
| 44. シボグモ | ♀A 1. Y 2 |
|----------|-----------|

XVII. アシダカグモ科

- | | |
|-------------|-----|
| 45. アシダカグモ | Y 1 |
| 46. コアシダカグモ | Y 1 |

XVIII. カニグモ科

- | | |
|--------------|------|
| 47. ヤミイロカニグモ | ♂A 1 |
| 48. コハナグモ | ♀A 1 |
| 49. ワカバグモ | ♀A 1 |

XIX. エビグモ科

- | | |
|--------------|------|
| 50. アマギエビスグモ | ♀A 4 |
| 51. シャコグモ | ♀A 1 |
| 52. アサヒエビグモ | ♀A 2 |

XX. ハエトリグモ科

- | | |
|----------------|------------|
| 53. ムツバハエトリ | ♀A 1 |
| 54. ヨダンハエトリ | ♂A 1 |
| 55. ミスジハエトリ | ♀A 1 |
| 56. キレワハエトリ | ♀A 1. ♂A 1 |
| 57. ジャバラハエトリ | ♀A 1 |
| 58. ネオンハエトリの一種 | ♀A 2. Y 1 |
| 59. ハエトリグモ科sp. | ♂A 1 |

三重県産真正蜘蛛類目録 (Ⅲ)

三 重 ク モ 談 話 会

三重県の真正蜘蛛類は、現在、38科 176属 363種が記録されているが、その後、次の種の生息が確認された。

1. ヒロハヒメグモ 度会郡大宮町黒坂〔C3631-3424〕
度会郡大宮町野原新田〔C3630-3424〕
2. ヤマトカブトヒメグモ 名張市比奈知丸山〔C3609-3435〕
3. カラオニグモ 名張市比奈知瀧〔C3610-3436〕
名張市比奈知丸山〔C3609-3435〕
亀山市石水溪〔C3623-3455〕
一志郡美杉村うるし
津市長谷山
4. フジイコモリグモ 四日市市河原田町〔C3635-3454〕
5. エビチャーヨリメケムリグモ 鳥羽市答志町
飯南郡飯高町湯谷川
亀山市野登山〔C3625-3455~C3625-3456〕
度会郡大宮町古里〔C3628-3423〕
名張市比奈知深広〔C3610-3436〕
6. ニッポンオチバカニグモ 伊勢市佐八町
7. ヤマトヤドカリグモ 名張市比奈知上出小場〔C3610-3437〕
8. イソハエトリ 北牟婁郡海山町引本〔C3614-3406〕
鳥羽市答志島〔C3654-3431〕
三重郡楠町吉崎海岸〔C3638-3454〕

○なお、ハナオニグモはムツボシオニグモと同種となるため目録から削除する。

以上の結果、三重県産真正蜘蛛類は 38科 179属 370種 となった。

談話会図書 (文献目録)

- | | | | | |
|------|--|---------|------|---------|
| 181. | ACTA ARACHNOLOGICA | vol. 34 | No2 | 東亜蜘蛛学会 |
| 182. | A T Y P U S | | No87 | 東亜蜘蛛学会 |
| 183. | 談話会通信 | | No54 | 東京蜘蛛談話会 |
| 184. | 談話会通信 | | No55 | 東京蜘蛛談話会 |
| 185. | 談話会通信 | | No56 | 東京蜘蛛談話会 |
| 186. | A T Y P U S | | No88 | 東京蜘蛛談話会 |
| 187. | ACTA ARACHNOLOGICA | vol. 35 | No1 | 東亜蜘蛛学会 |
| 188. | くものいと | | 第5号 | 関西クモ研究会 |
| 189. | 蜘蛛 (20) | | | 中部蜘蛛懇談会 |
| 190. | 九州クモの会会報 (第15号) | | | 九州クモの会 |
| 191. | 日本新記録 <i>Theridion adamsoni</i> の記載と観察 | | | 熊田憲一 |
| 192. | A T Y P U S | | No89 | 東亜蜘蛛学会 |
| 193. | 談話会通信 | | No57 | 東京蜘蛛談話会 |

◎談話会図書貸出し希望の方、機関誌バックナンバー御希望の方は、事務局までお申し込み下さい。

訃 報

当談話会会員の孫福正先生が、昭和62年4月21日午後10時45分御逝去されました。満80歳になられた矢先のことでした。先生はコケ植物の御研究で御高名であるとともに、三重県が生んだ理科教育の第一人者として長く活躍をされました。また、三重県のクモ類研究の先駆者として多くの業績を残されました。まだ沢山の御指導を仰がねばならなかっただけに残念でなりません。ここに心からごめい福をお祈り申し上げます。

昭和61年度決算報告

収入の部 103,387 円

前年度繰越金	51,760	
会費	41,000	(1,000×41)
機関誌売上	10,500	
利子	127	

支出の部 35,520 円

機関誌第13号製本代	6,000
機関誌第13号郵送代	5,280
機関誌第14号紙代	6,580
機関誌第14号製本代	6,000
機関誌第14号郵送代	6,490
通信・事務費	5,170

残高 67,867 円

上記の通り相違ありません

昭和62年3月31日

会 計 員 発 憲 治

会費領収 (敬称略)

〔昭和62年8月20日現在〕

(昭和54年度～昭和57年度) 下市昇一 (昭和58年度) 下市昇一。川辺良一 (昭和59年度) 下市昇一。川辺良一。孫福正 (昭和60年度) 下市昇一。川辺良一。孫福正。石田昇三 (昭和61年度) 下市昇一。川辺良一。孫福正。石田昇三。熊田憲一。西川喜朗。千国安之輔。永井均。大川親雄。松井勇作。貝発憲治。小沢実樹。八木沼健夫。松本誠治。橋本理市。田中穂積。板倉泰弘 (昭和62年度) 下市昇一。熊田憲一。西川喜朗。大川親雄。貝発憲治。小沢実樹。八木沼健夫。松本誠治。永井均。田中穂積。新海明。緒方清人。市橋甫 (昭和63年度) 下市昇一。熊田憲一。市橋甫。小沢実樹

◎会費未納の方は、至急お納め下さい。原則として前納でお願い
します。

郵便振替

名古屋

8-3895

編 集 後 記

今夏は入院と通院で明け暮れ、はたしてタイプが打てるのかと随分心配したが、予定通り作業が進み、ほっとしているところである。今回は、県外の三名の方々から玉稿をいただいた。大変深い内容のものをお寄せいただき恐縮している。いろいろな面での県外の方々の多大の御援助で、充実した活動ができました。引き続き採集会等を計画しますので、県内の方々もよろしく願います。
(貝発)

し の び く も 第 15 号 1987

昭 和 62 年 8 月 25 日 印 刷

昭 和 62 年 9 月 5 日 発 行

編 集 者 太 田 定 浩 ・ 橋 本 理 市 ・ 貝 発 憲 治

発 行 者 太 田 定 浩

発 行 所 三 重 夕 暮 談 話 会

(本 部) 〒510 三 重 県 四 日 市 市 前 田 町 23-3

太 田 定 浩 方

(事 務 局) 〒515 三 重 県 松 阪 市 久 保 町 1843-157

貝 発 憲 治 方